



## 学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」  
～誇りの持てる学校に、誇りの持てる自分に～

## 「伸び盛り」だからこそ

今、将棋の藤井聰太。卓球の張本智和、平野美宇、伊藤美誠10代の活躍が頻繁にマスメディアに取り上げられています。10代の潜在的な才能があちこちで開花してきています。相田みつをの著作「おかげさん」の中に次のような一節があります。

### 「やわらかいこころ」

木の芽がのびるのは やわらかいから  
若葉がひろがるのは やわらかいから  
かすかな風にも 竹がそよぐのは 竹がやわらかいから  
年を取って困るのは 足腰ばかりではなくて  
頭が固くなることです 心が固くなることです  
やわらかいこころを 持ちたいものです  
いつまでも心の若さを 保つために



玄関ホールの生花。毎週、地域の安藤さんが、10年以上も来てくださっています。感謝感謝です。



後半の部分は何とも耳の痛いところですが、前半の部分は、生き生きと伸びていく子供たちの姿が目に浮かんできます。まさしくここに歌われているように、10代は可塑性に富み、生活環境、周囲の関わり、指導・教育、経験によって、コミュニケーション能力、社会性、情緒面、行動面、認知面、運動面と多面的に能力の成長を図ることができます。「鉄は熱いうちに打て」の格言のように、鍛えて有用な形に作りあげる、『のび盛り』の時期と言えます。ここで気をつけなければならないのが、「どう鍛えていくか?」ということです。

10代の活躍がめざましい。若者が躍動する姿はすがすがしいし、社会全体が明るくなる。若い才能の開花が日本の元気につながることを改めて認識させられます。

かつてのバスケットボールのスーパースター、マイケル・ジョーダンはこう言っています。『わかりやすい格言を紹介しておこう。何事をなすにも、正しい方法と間違った方法があるという格言だ。たとえば、毎日8時間シュートの練習をしたとしよう。もしこの場合、間違った技術で練習を続けていたとしたら間違った技術でシュートする名人になるだけだ。』また、『徒然草』の中にも、「仁和寺にある法師～」の段に『少しのことにも、先達はあらまほしき事なり（簡単なことでも、指導者というものが必要なのだ。）』と、我流でなく正しく導いてくれる指導者の重要性が述べられています。

34日間にわたる夏休みが待っていますが、この期間を自身の才能や力量を伸ばすために、大切に過ごしてください。ご家庭でも、お子たちの持てる能力を磨き發揮させていくために、豊かなコミュニケーションを心がけていただければと思います。同時に、ご家族で過ごす時間を大切にしてください。

## 1学期末 保護者懇談会

7月11日(水)～19日(木)

すでに担任より連絡させていただいておりますが、保護者懇談会（三者懇談）を実施いたします。

4月からの学習や生活などを振り返り、学校での頑張りや夏休みの過ごしなどについてお話しできたらと思います。また、お家の様子などもお聞かせください。